

10月7日(日)

聖書

創世記12・1～9

聖句

あなたは祝福の基となるであ
う。 2節

たくさんいる子どもたちの中から、特別に選
ばれる「つてうれいことですよね。クラス委員
とか、学校代表とか。アブラムの選びもスペシャ
ル！アブラムを通して、神様の祝福がいろんな
人に、どんどん広がる「つていう選びですから！
神様のお声が聞こえました。何という祝福。お
声に従って出て行きました。これも何という
祝福。その祝福なら私にも与えられている
よ、と思いませんか？み言葉を聞いて従う人
は、みんな祝福を広げていく人ですね。

いの
祈り

天のお父様、私をも祝福の選びに入れてく
ださって感謝します。み言葉を心にたくわえ、
お従いさせてください。



聖書

創世記12・1～9

タイトル

信仰の父

暗唱聖句

あなたは祝福の基となるであ
ろう。 創世記12・2

目

標

信仰の父アブラハムの選びに学
ぶ。

10月9日(火)

聖書

創世記12・10～20

聖句

主はアブラムの妻サライのゆえに、
激しい疫病をパロとその家に下さ
れた。 17節

「ニはちよつとびつくりしますが、アブラム
の失敗の巻ですね。そうか、アブラムでも失敗
したのだと、ちよつと考えてしまいます。ア
ブラムも弱い人間だから失敗しました。
自分の命を守ろうとして、ウソをついてし
まったのですね。サライがあやうくエジプトの
パロの妻にされそうになった時、神様のみ手が
のばされたのでした。はげしい伝せん病を下
されたパロは驚き、本当のことを知りまし
た。選ばれたアブラムの失敗の時も、神様は
選んだ者を守られました。

いの
祈り

天のお父様、もしも失敗をしてしまっても、
選んでくださったあなたの守りのみ手が働いて
くださるので感謝です。

10月8日(月)

聖書

創世記12・4～9

聖句

アブラムは彼に現れた主のために、
そこに祭壇を築いた。 7節

祝福を広げる人として選ばれたアブラムが、
一番大切にしたのは何だったでしょう？奥さんの
サライさん？一緒に行ったおいのロト？財産？ち
がいましたね。アブラムは自分に現れてくださ
て、み声をかけてくださった神様を一番大切にし
て、そこに祭壇を築きました。神様とお交わりの
できる所です。神様のみ声が聞ける所です。
今日、あなたが一番大切にしているものは何？
机にすわって、まずお祈りしてすべてのことを始
めるということです。

いの
祈り

天のお父様、私もアブラムのように、いつ
もあなたとお交わりをすることを、一番にできる
よう助けてください。

10月11日(木)

聖書

聖句

創世記13・14~18

すべてあなたが見た地は、永久にあなたとあなたの子孫に与えます。 15節

「ロトがアブラムに別れた後に」とあります。神様よりも自分のことを一番にするロトと、きっぱり別れ別れになったあと、神様はもう一度、念を押すように、約束の言葉を語ってくださいました。カナンの山地から見たすすすべての地は、永久にあなたとあなたの子孫のものだよと。私たちも、時には神様のことを第一にしないお友だちが行く方向へは行けない時があり、心につらい思いがあるかもしれません。でも神様の前には、それは祝福なのです。

いのちの祈り
天のお父様、神様の祝福の道が、時にはせまい道、つらい道と思えることがあっても、歩み続けさせてください。

10月10日(水)

聖書

聖句

創世記13・1~13

どうかわたしと別れてください。あなたが左に行けばわたしは右に行きます。 9節

人は豊かになると、いろいろと争いごとがおこってくるようですね。アブラムとロトの家畜の牧者たちが争いはじめました。せまい土地に両方の家畜が住むには、とても無理になってきました。そこでおじさんのアブラムは、「ロト、あなたのほしい地を選びなさい」と心を低くして、ゆずりました。ロトはぐりりと周りを見渡して、良い地と見えた低地の町々を選び取りました。その地は、実はとても悪い罪人たちの町でした。「欲目」の選びは不幸を生むのです。

いのちの祈り
天のお父様、いつもどちらかを選ぶ毎日の生活の中で、心を低くして、自分の欲でなく、神様の思いで選べますように。

10月13日(土)

聖書

聖句

創世記14・17~24

彼はアブラムを祝福して言った、「願わくは天地の主なるいと高き神が、アブラムを祝福されるように」。 19節

「シャローム」って聞いたことある？ 平安とか平和という意味だけでなく、はん栄とか祝福とかとても豊かなことを含んだ言葉なのです。サレムの王とは「シャロームの王」です。平和の王、メルキゼデクの登場です。メルキゼデクとは「義の王」という意味です。いと高き神の祭司であるこのメルキゼデクが、勝利して帰ったアブラムを、パンとぶどう酒をもって祝福してくれたのでした。このメルキゼデクは、やがて来られるイエス様のお姿なのです。

いのちの祈り
天のお父様、十字架で死に、よみがえられたイエス様を信じる時、あなたからの祝福が注がれることを感謝します。

10月12日(金)

聖書

聖句

創世記14・1~16

彼はすべての財産を取り返し、また身内の者ロトとその財産および女たちと民とを取り返した。 16節

祝福を広げて行く人とは、神様と心をから愛する、勇氣に満ちた人だということが、今日のアブラムの姿を見てよくわかります。ソドムに住んでいたロトはとんでもない戦争に巻き込まれて、ケダラオメル連合軍のとりことなってしまいました。アブラムは、身内のロトと民とのかたを聞いて、すぐさま訓練した家の子三百十八人を引き連れて、戦略をめぐらし、みごとロトと財産、女たちと民とを取り返しました。この愛と勇氣と力は、祝福の神様からでした。

いのちの祈り
天のお父様、今も私たちのまわりで、罪や悪い誘いのとりこになっている人たちのために、愛と勇氣と力をください。

10月14日(日)

聖書

創世記15・1～6

聖句

アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。 6節

秋の星座ってどんなのかしら？この時アブラムが神様から言われてあおいだ夜空には、きつと数えられないほどたくさん星がきらめき合っていたのでしよう。子どもを産めない妻サライと、だんだん年を取っていくアブラムは、自分たちの子どもはあきらめて、「召し使いがあとつぎになるのでしよう」と神様に話すと、「ちがいます。あなたの子どもから、空の星のように子孫が生まれる」とのお答えでした。アブラムはそれを信じたのです！アブラムは義と認められました。

いのちの祈り
天のお父様、神様は、私たちが神様を信じることを一番喜んでくださり、信じる者を義としてくださることを感謝します。



聖書

創世記15・1～6

タイトル

信仰による義

暗唱聖句

アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

創世記15・6

目標

アブラハムが信仰によって義とされたことを知る。

10月16日(火)

聖書

創世記17・1～8

聖句

わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。 1節

失敗から13年間、神様からの言葉もなく、暗い年月を過ごして、アブラムも99歳にもなっていました。でも神様は真実な方、約束を絶対に守ってくださるお方です。99歳のアブラムに神様は突然現れて言われました。「わたしは全能の神、母の胸の神様だよ。あなたは失敗したけれど、この私の前に歩んで行けば大丈夫だよ。あなたを多くの国民の信仰の父とします。名前もアブラムからアブラムにしましょう」と。神の真実は今も変われません。

いのちの祈り
天のお父様、どんなに長い年月がたっても、あなたの約束は必ずそのとおりになるとは、何てすばらしいのでしょうか。

10月15日(月)

聖書

創世記16・1～6

聖句

アブラムはサライの言葉を聞きいれた。 2節

「これは聖書に記されている、アブラムの二つ目の失敗です。考えてみれば神様からのお約束から、かれこれ10年近くにもなっていたのです。『ああ、もう、あの神様のお約束は昔のことになってしまった。サライが言うように、彼女の女どれいハガルによって子をもつのが、もしかしたら神様のみこころなのかもしれない』と考えたのでしよう。でもお祈りしなかったんですね。さて、私たちは？神様の言葉を一番にする？それとも人の言葉でしようか？

いのちの祈り
天のお父様、どんなに信頼できる人でも、まちがいもあることがわかりました。あなたの言葉を第一にします。

10月18日(木)

聖書

創世記18・1～8

聖句

目を上げて見ると、三人の人が彼に向かっていた。 2節

今年の夏も暑かったですね。36度とか37度とか！アブラハムもその日、ママレのテレビンの木のかたわらにいたとき、昼の暑いころのことだったのです。天幕の入口にすわっているアブラハムの前に、三人の人が立っただけではありませんか。昼の暑いころはみんなゴロゴロ昼寝タイムですよ。でもアブラハムの心とたましいはハッキリ覚えていて、走って行って彼らを迎え、急いでおもてなしの用意をし、急いで調理しました。知らず知らずの内に主をお迎えしたのです。

いのちの祈り

天のお父様、私の心も守ってください、アブラハムのように、突然あなたが来られても、ちゃんとお迎えできますように。

10月17日(水)

聖書

創世記17・15～21

聖句

あなたの妻サラはあなたに男の子を産むでしょう。名をイサクと名づけなさい。 19節

百歳の主人と90歳の奥さんから、赤ちゃんが生まれるですって!? 冗談でしょう!とだれもが笑って相手になんかしてくれないよ。うな話ですね。アブラハムだって、サライからサラとお名前を変えられた奥さんだって、そうでした。「フツ」って、つい心の中で笑ってしまいましたよ。「やっぱり、今、目の前にいるハガルの子イシマエルがあとつぎになる人でしょう」と言う、「いやサラが子を産むのだ、その子の名をイサクと名づけなさい」とまで言われます。

いのちの祈り

天のお父様、あなたは、時に人間の常識をはるかにこえた、素晴らしいことをされると知りました。

10月20日(土)

聖書

創世記18・16～33

聖句

わたしのしようとする事をアブラハムに隠してよいであろうか。 17節

やがて三人の人々はソドムの方へと歩き出しました。もう一つのことをアブラハムに告げたのは主でした。その時、次のように言われました。「わたしのしようとする事をアブラハムに隠してよいであろうか」とアブラハムは人々に祝福を届けたい人だ、わたしの友だ、隠してはおられない。それはソドムとゴモラを滅亡させるという計画のことでした。アブラハムは心を低くして、ロトと家族のために必死のとりなしをしたのです。それは神に覚えられました(19・29)。

いのちの祈り

天のお父様、私もあなたとの間が「隠した」のでないほど、親しい友のようになれるよう、お祈りします。

10月19日(金)

聖書

創世記18・9～15

聖句

主にとって不可能なことがあります。来年度の春、定めの際に、わたしはあなたの所に帰ってきます。 14節

三人の人々はアブラハムに二つのことを知らせようとやってきたのでした。三人のうち一人、つまり主はまず一つのことを告げました。来年度の春、サラには男の子が生まれているということでした。それを聞いたサラも、以前アブラハムがそうだったように、心の中で笑って言いました。「年老いた私たちに子どもですって?!」と。なぜサラは笑うのか、主にとって不可能なことがありましようか、来年度の春、定めの際には男の子が生まれているでしょう。

いのちの祈り

天のお父様、あなたにとっては、「不可能なことは一つもありません」。このことを心から信じていきます。

10月21日(日)

聖書

創世記26・12～25

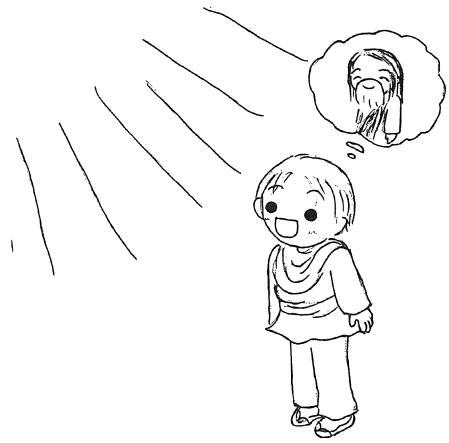
聖句

わたしはあなたの父アブラハムの神である。あなたは恐れてはならない。

24節

神様の祝福は、アブラハムの子イサクにちゃんと受けつがれていきました。それは人々から、ねたまれるほどの祝福でした！ねたまれたことありますか？ねたんだことは？どちらもちつともうれしいことではありませぬ。ねたまれたイサクは、神様から多くのものをいただいていたからです。それと共に、イサクの心も「柔和」な心という祝福を宿していました。父アブラハムの住んでいたベエルシバで、イサクは神様からの慰めに満ちたみ声を聞いたのです。

祈り 天のお父様、イサクがあなたからいただいた、「柔和」という祝福の心と行いを、私もいただけますようにとお祈りします。



聖書

創世記26・12～25

タイトル

柔和なイサク

暗唱聖句

わたしはあなたの父アブラハムの神である。あなたは恐れてはならない。創世記26・24

目標

祝福を継いだイサクに学ぶ。

10月23日(火)

聖書

創世記24・50～67

聖句

イサクは夕暮、野に出て歩いていましたが、目をあげて、らくだの来るのを見た。

63節

みなさんはまだ幼いけれど、でももしかして、将来の「結婚」とか考えたことがあるのかな？神様に導かれる結婚、祝福される結婚、そして、別れないのがいいですね。「いや、結婚の相手だけは、やっぱり私が選びたいよ」とだれだつて思うでしょう。ところがイサクはちがいましたよ。このことも神様におまかせしようと、静かに決心をして、神様が選んでくださる相手を選びました。そこに、らくだに乗ったリベカが連れてこられました。

祈り 天のお父様、本当に、すべてのことにおいて、あなたが私のために選んでくださるのが、一番いいとわかりました。

10月22日(月)

聖書

創世記22・1～14

聖句

イサクは言った、「火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか」。

7節

「柔和」な心というのは、ただおだやかでやさしいだけではありません。絶対に反発しない、怒らない、キレない心です。そう考えると本当は強い心だとわかります。それは神様を信じる信仰によって始めて持てる心です。神様の約束の子、しかもたつた一人のイサクだつたのに、アブラハムが「イサクを殺して神様にささげる」だつて!?でもイサクはしばらくは、まことに、柔和な、落ち着いた心でした。「父は、神を信じて従っているのだ、だからばくもそうしよう」と。二人共、立派!!

祈り 天のお父様、父と子の強い信仰を見ました。そして、あなたはその信仰にみごとに報われるお方であることも！

10月25日(木)

聖書

創世記26・1～5

聖句

主は彼に現れて言われた、「エジプトへ下ってはならない。わたしがあなたに示す地にとどまりなさい」。

2節

今まで住んでいたネゲブにききんがおりました。作物ができなくて食べる物がなくなってしまう、まさに危機です。少し北西の海に近いゲラルに移っていったイサクに神様はまたやさしく話してくださいました。「食べ物求めてエジプトには行かないように。この地にとどまっていたら、わたしはあなたと共にいて、祝福し、子孫を天の星のようにし、彼らを通してわたしの祝福が広がるようにするから」と。神様は必要な時、必ず導きをくださいます。

いのちの祈り
天のお父様、困った、どうしようと思う時にも、あなたは必ずどうするのが祝福の道か、教えてくださり感謝です。

10月24日(水)

聖書

創世記25・19～26

聖句

イサクは妻が子を産まなかったの
で、妻のために主に祈り願った。21節

「柔和な人」は、あせったり、さわいだり、わめいたり、叫んだりしません。ただ心に深く神様を信じて、忍耐深くお祈りをして、神様からのお答えをいただくまで待つ人です。さて、イサクはリベカに赤ちゃんが与えられるように何年お祈りしたのでしょうか。40歳で結婚したイサクに、ふたこの子どもたちが与えられたのは、なんと、20年後！イサクが60歳になった時でした。ウワーツ！20年もリベカのためよくも祈れたね！愛と信仰の結晶でした。

いのちの祈り
天のお父様、イサクのリベカへの愛は本物だったことがわかりました。私も愛と信仰と祈りの人になってください。

10月27日(土)

聖書

創世記26・12～22

聖句

いま主がわれわれの場所を広げられたから、われわれはこの地にふえるであろう。22節

せっかく自分がみつけたかぶと虫を「それほど最初に見つけたんだ！」と言われて横取りされたらどう？腹を立ててけんかしちゃう？それも一度だけでなく二度、三度そんなことがあったら！イサクはけんかきらいでしたよ。エセク(争いの)井戸の時も、シテナ(にらみ目)の井戸の時も、じっと見守りました。レホボテ(広い場所)の井戸の時はいりしで、ともさすがにうばい取らなかったのです。柔和なイサクの勝利でした。主を信じて勝利しましょう。

いのちの祈り
天のお父様、争いの多い毎日の生活です。イサクのようにあなたを信じて、いつも柔和に勝利させてください。

10月26日(金)

聖書

創世記26・6～11

聖句

その所の人々が彼の妻のことを尋ねたとき、「彼女はわたしの妹です」と彼は言った。7節

その地、つまりペリシテびとのゲラルに住んでいた時のイサクの失敗の巻です。父アブラハムと同じような失敗をしてしまいました。心に恐れがわいたからでした。妻リベカのことを「わたしの妹です」と言ってしまったのです。神様に選ばれたからといってみんな「完璧」というわけではありません。弱い、恐れやすい、失敗しやすい、そんなイサクのために、神様があわれみの助けの手をのばされました。リベカもイサクもペリシテ人も守られたのです。

いのちの祈り
天のお父様、私もイサクのように弱く恐れやすく失敗しやすい者ですが、あなたが守ってくださり感謝します。

10月28日(日)

聖書
聖句

創世記25・19～34

一つの民は他の民よりも強く、兄は弟に仕えるであろう。 23節

双生児、ソーセージ、おいしそうな呼び名だけど、ふたことも言います。一度に二人の赤ちゃんが、続けて産まれてくるのですね。中には超そっくりで親もどちらかわからないふたこもいます。エサウとヤコブは見分けがついたみたいです。毛むくじやらとスベスベ肌でね！それに性格も全然ちがいで、片や狩猟家、片や家庭の！どうして兄より弟？しかも人の権利を、人の欲を利用してうばうような弟ヤコブが選ばれたのでしょ？

祈り 天のお父様、あなたの選びは人の考えとはかなりちがうことが、ヤコブを通してよくわかります。もっと深く知りたいです。



聖書

創世記25・19～34

タイトル

押しのけるヤコブ

暗唱聖句

一つの民は他の民よりも強く、兄は弟に仕えるであろう。

創世記25・23

目標

祝福を継いだヤコブの不思議な選びと生涯に学ぶ。

10月30日(火)

聖書
聖句

創世記25・27～28

イサクは、しかの肉が好きだったので、エサウを愛したが、リベカはヤコブを愛した。 28節

ぼくはお父さんっ子、私はお母さんっ子、ぼくはおばあちゃんっ子、私はおじいちゃんっ子とか言っていると、自分をとってもかわいがつてくれているのがだれかがよくわかります。イサクがエサウを愛した大きなわけは、イサクの大好きな「しかの肉」を、とってきてくれるからだだったのですね！リベカがエサウよりもヤコブを愛したのは？家にいておとなしくしていたから？そうではなく、本当は神様の約束があったからでした。人の愛には弱さがあります。

祈り 天のお父様、たとえ親であっても人間なので、その愛にもかたよりや弱さがあることがよくわかりました。

10月29日(月)

聖書
聖句

創世記25・24～26

その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで名をヤコブと名づけた。 26節

「くら、ちよつと、待った！ボクが先にでたのだから」って、弟ヤコブの手が、兄エサウのかかとをしっかりとつかんでいったっていうのです。すごい赤ちゃんでしたね。それでその名前が「ヤコブ」(かかとをつかむ者)と、つけられたのでした。そのように、人のかかとをつかんだり、押しのけたり、つぶったりするヤコブの方が、神様には選ばれたというのですから不思議です。もしかして私にもそんな性質があるかも、思うあなたも大丈夫ですよ。

祈り 天のお父様、ヤコブさえも選んでくださったあなたが、イエス様によって私も選んでくださり感謝です(エペソ1・3～5)。

11月1日(木)

聖書

創世記27・1～17

聖句

それで、子よ、わたしの言葉にしたがい、わたしの言うとおりにしなさい。
8節

「わたしは死ぬ前にあなたを祝福しよう」とイサクがエサウに話しているのを、リベカは聞いていました。さあ、いよいよです。イサクが死ぬ前に、アブラハムの神様からの祝福を祈る時がきたのです。リベカの心はドキドキしたでしょう。「いや、その祝福はどうしてもヤコブの上に祈って注いでもらわなければ……」と。「そうだ、急いでおいしいものをつくり、エサウが行く前にヤコブに行かせよう！ 母リベカの頭はくるくる回って、ヤコブは言うとおりにします。

いのちの祈り
天のお父様、ここでは、人の知恵が、あなたの約束よりも先走って働いているのを見ます。あなたはそれさえも用いられるお方です。

10月31日(水)

聖書

創世記25・29～34

聖句

ヤコブは言った、「まずあなたの長子の特権をわたしに売りなさい」。
31節

「お腹がすいてペコペコだ、ああ、疲れた。何でもいから、食べさせてくれよ」というのが、獵から帰ってきたエサウの気持ちでした。ちょうどそれをねらっていたかのように、ヤコブはレンズ豆の熱い物をおいしそうに煮ていたのです。エサウはまんまとわなにひっかかりました。「長子の特権？ 何の腹の足しにもならない。誓って売ってやるよ」。実はそれは神様からの大切な権利だったのに、エサウは大切にせず、ヤコブはその神様の祝福を求めたのです。

いのちの祈り
天のお父様、このあたりから、なぜヤコブが選ばれたのかわかってきます。神様の祝福を心から求める大切さを知りました。

11月3日(土)

聖書

ローマ9・6～13

聖句

「わたしはヤコブを愛しエサウを憎んだ」と書いてあるとおりでである。
13節

神様の祝福の選びは、ただ不思議という他はありません。このふたこの場合でも、子どもがまだ生まれもしない先から、しかも善いことも悪いことも何もしない先から、召してくださいました神様の選びの計画が実行されていったのです。「兄は弟に仕える」という計画でした。ただ神様のあわれみの計画です。今も、自分のことを考えてみてもそうですね。不思議です。エペソ1章3～5節には「天地の造られる前から、キリストにあつてわたしたちを選び」とあります。

いのちの祈り
天のお父様、ただあなたのあわれみの選びによって、今あることを感謝します。あなたの祝福を求めています。

11月2日(金)

聖書

創世記27・18～29

聖句

あなたをのろう者はのろわれ、あなたを祝福する者は祝福される。
29節

仮装行列に加わったことがありますか？ 何になった？ ナースとか、おまわりさんとか？ このヤコブはエサウに成りきったのです。エサウの晴着を着て、手と首のスベスベ肌のところに子やぎの皮をつけて、毛むくじやらししました！ ヤコブの心臓はドキドキだったでしょうが、ついにやっちゃった！ 父イサクをうまくだまして、しっかり祝福のお祈りを自分のものにしてしまいました。アブラハムの神、イサクの神の祝福です！ 夢にまで願っていたことが実現しました！

いのちの祈り
天のお父様、祝福を得る方法はよくありませんでしたが、あなたの祝福を求めてやまない心に教えられます。

11月4日(日)

聖書

創世記28・10～22

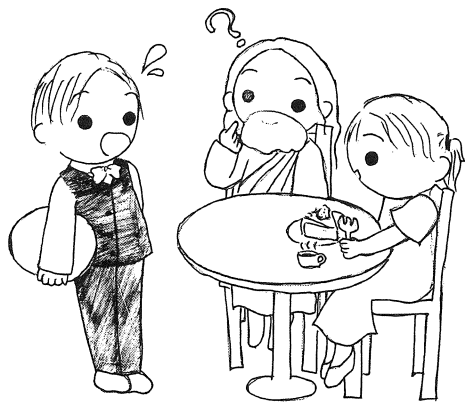
聖句

まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。 16節

「お父さんがクリスチャン、お母さんもクリスチャン、だからぼくもクリスチャン」というわけにはいかないことが、ヤコブのお話でわかります。生まれてから、いつかどこかで罪をゆるしていただいて、イエス様を信じて心の生まれ変わりが必要です。家の中で、両親に守られていたヤコブの心細い、恐ろしい一人旅。一つの所で石を枕に寝たヤコブに、神様がはしこの夢に現れてくださいました。ヤコブは初めて神様と出会い、生まれ変わったその場所をベテル(神の家)と名づけました。

いのちの祈り

天のお父様、一人になることはさびしいですが、神様と本当に出会える最大のチャンスだと、よくわかりました。



聖書

創世記 28・10～22

タイトル

神の家

暗唱聖句

まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。

創世記28・16

目

標

ヤコブの生まれ変わりの経験を知る。

11月6日(火)

聖書

創世記29・1～12

聖句

ヤコブは母の兄ラバンの娘 ラケルと母の兄ラバンの羊とを見た。 10節

ベテルからは、もう一人ぼっちではありませんでした。神様がいつしよでした。そして、ついに目的地へと近づけてくださったのでした。のほら、一つの井戸があり、そのそばに羊の群野原に一つの井戸があり、そのそばに羊の群れがいました。羊に水を飲ませる所でした。そこにいた人々はラバンを知っている人々でした。しかもその娘ラケルが、今やって来るといってはあきません。そしてついに、目の前に彼女が羊と共に現れ、ヤコブは旅のことを思い、思わず声をあげて泣き出しました。

いのちの祈り

天のお父様、あなたは約束のように、ヤコブと共にいて目的地まで導かれました。人生の旅もそうしてくださることを信じて感謝します。

11月5日(月)

聖書

創世記28・18～22

聖句

神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。 20、21節

「神様、あなたがこれこれしてくださったら、私はあなたを信じます」というお祈りは、「条件付きのお祈り」といいいます。とても自分勝手なお祈りだと思いませんか？もしかして、あなたも時々、こんなヤコブ調のお祈りをすることがあるかしら？神様を信じてからでも人はわがままで、自分中心なのですね。でもそんなお祈りも、神様はちゃんと聞いてくださり、共にいてくださいます。

いのちの祈り

天のお父様、知らず知らずのうちに、私もヤコブのようなお祈りをしていると思いますが、守っていてくださり感謝します。

11月8日(木)

聖書

創世記29・21～30

聖句

わたしはラケルのために働いたの
ではありませんか。どうしてあなた
はわたしを欺いたのですか。25節

「まちがってはいけない。神は侮られるよう
なかなたではない。人は自分のまいいたものを刈
り取ることになる」(ガラテヤ6・7)のとお
り、父や兄をだましてきたヤコブは、ラバンに
だまされ、ラバンを通して神様から心のお取
り扱いを受けるようになるのです。七年の
後、与えられたのは何と目の弱い姉のレア
だったのです。ヤコブはラバンに文句を言いま
すが、きつと心に何か感じたのでしょうか。
結局、あと七年、ラケルのために働くこと
になりました。

いの
祈り

天のお父様、まいいたものを刈り取るという、
このおごそかな真理を覚えて、あなたの前によい
種まきに励めますように。

11月7日(水)

聖書

創世記29・13～20

聖句

ヤコブは七年の間ラケルのために
働いたが、彼女を愛したので、ただ
数日のように思われた。20節

ラケルはどんなにか、かわいらしくて魅力的
だったのでしょうか。「美しくて愛らしかつ
たラケルのためにヤコブは七年あなたに仕
えましよう」と、おじさんのラバンに約束しま
した。やりたくないことをする時は、一週間
やつても10年くらいやっているように思える
けれど、愛するラケルを自分の奥さんにでき
る!と思って働いたヤコブには七年という
年月があつという間にたつて、まるで5日か
6日くらいしか働いていないように思えた
というのです。

いの
祈り

天のお父様、心に愛をもってするのとしな
いとは、大きくちがいます。あなたを愛して全
てのことをさせてください。

11月10日(土)

聖書

創世記30・1～24

聖句

名をヨセフと名づけ、「主がわたし
に、なおひとりの子を加えられるよ
うに」と言った。24節

聖なる十二支族なのですが、こうして聖書を
読んでいくと、おやおや、彼らの誕生のバック
は、女性のねたまや欲だったのじゃないのと、わ
かてきます。でもそんなみにくいものも、
神様は聖なるものへと変えていつてくださるの
ですから、すばらしいですね。ラケルにも胎を
開いていただける時がきました。みんなよく
知っている「ヨセフ」の誕生です!「さらに加え
られるように」との願いのこめられた名前
で。ラケルはへりくだって主に願っています。

いの
祈り

天のお父様、私たちのみにくい心から出た
ことも、あなたはきよめて栄光のために用いられ
ることがわかり感謝します。

11月9日(金)

聖書

創世記29・31～35

聖句

主はレアがきらわれるのを見て、そ
の胎を開かれたが、ラケルは、みご
もらなかった。31節

神様は一人一人の心をよくご存知で、姉の
レアの心もよくわかっていてくださいまし
た。レアがヤコブにきらわれるのを「ごらん
なつて、神様はレアの胎を開かれて、次々と子
どもをさすってくださいました。ルベン、シメ
オン、レビ、そしてユダ。ユダとは「わたしは
今、主をほめたたえる」という意味の名前な
のです。胎に子どもが与えられるのも、実は
神様の恵みによるのですね。ここから十二
支族となる子どもたちが次々誕生してい
くのです。

いの
祈り

天のお父様、もし私がまわりの人からきら
われるような時も、あなたは私のことを覚えて
くださり感謝します。

11月11日(日)

聖書

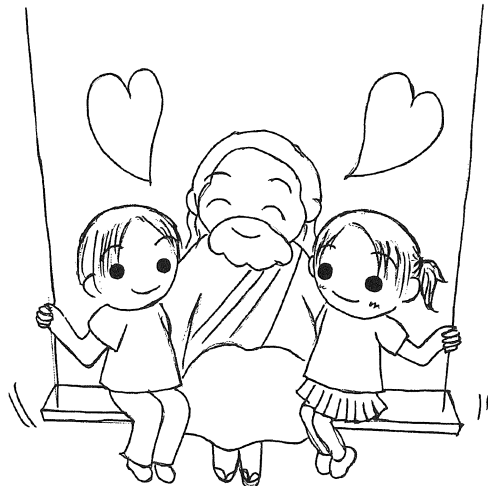
創世記32・22～32

聖句

わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません。 26節

人生の中で「これっ!」という大切なでき事があります。ヤコブにとっては前の「ペテル」(神の家)と、この「ペニエル」(神の顔)でした。神様の祝福を求めに求めたヤコブの必死のしゅん間でした。ヤコブは神様にしがみつき、もものつがいはずされても「祝福してくださあーい!」と求め続けて、ついに祝福をいただきました。名をイスラエル(皇太子)と変えられ、それはヤコブの自我のつっぱりがくだかれ、神様の性質が与えられるという祝福でした。

いのちの祈り 天のお父様、私もヤコブのように、あなたの祝福を求めさせてください。本物の神の子とされる祝福を求めます。



聖書

創世記 32・22～32

タイトル

神の顔

暗唱聖句

わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません。

創世記32・26

目

標

ヤコブが神の皇太子とされた経験を知る。

11月13日(火)

聖書

創世記30・37～43

聖句

こうして弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなった。 42節

さらに6年間、ヤコブはラバンのもとで働くことになりました。家畜の群れを育てるためです。そのころ、ぶちとまだらの羊ややぎ、黒い子羊は珍しかったので、そんな家畜を、ラバンはあつさりと言コブに、これまでの働きの「ほうび」としてあげました。すこいことに、ヤコブは神様からすばらしい知恵をいただいて、自分の群れをどんどん増やし、しかも強いものばかりがヤコブのものとなりました。6年間で、大いに富み、多くの家畜と、どれいの持ち主となりました。

いのちの祈り 天のお父様、あなたはどんなことのためにでも知恵を与えてくださり、祝福してくださる方であることを感謝します。

11月12日(月)

聖書

創世記30・25～36

聖句

わたしは主があなたのゆえに、わたしを恵まれるしるしを見ました。

27節

最愛の妻ラケルがやっとヨセフを産んだので、ヤコブはもうそろそろ自分の故郷に帰らせてほしいと、おじのラバンに言いました。するとラバンは、「できればもうといてください。あなたがもらえるおかげで、私も私の家もたくさんのお恵みと祝福をいただいているのが、よくわかっていのですから」と言います。ほとんどだまし合ひのようなラバンとヤコブの14年間でしたが、さすがに、祝福を受け継ぎ、広げていく人としてヤコブは選ばれたのですね。

いのちの祈り

天のお父様、「あなたが一緒にいてくれるおかげで、祝福がいっぱいやってきます」と、言われるようにしてください。

11月15日(木)

聖書

創世記31・17~35

聖句

ラケルが神を盗んだことをヤコブは知らなかったからである。 32節

人さわがせなヤコブ一家ですね。20年も共にいたラバンに一言のあいさつもなし、二人の娘たちと11人の孫たちを連れて、またすべての持ち物をひっさげて、とっとと逃げ去ってしまいました。しかもラケルは父ラバンの神、テラピムを盗み出していくなんて！ラバンは怒って一週間かけて追いつきます。神様は、ラバンに夢で「ヤコブによしあしを言うな」と語りました。テラピムのことを知らなかったヤコブの態度はどうでしょう？守りとしか言いようがありません。

いの祈り

天のお父様、人の知るところや、正しいと思える行いにも大きなミスがあることを、他人ごとでなくよくわかります。

11月14日(水)

聖書

創世記31・1~16

聖句

だから何事でも神があなたにお告げになった事をしてください。 16節

ヤコブがものすごく富んでいくのを見て、ラバンの子らもラバンも顔色を変えるのがわかりました。ヤコブは主に祈り、再び約束の言葉をいただきました。「わたしはあなたと共にいるであろう」と。さらに、ラケルとレアとに話しました。20年間ラバンに仕えてきたこと、特に終わりの6年間の神様の祝福と、約束のみ言葉について。すると二人の妻たちは声をそろえて、ヤコブに同意してくれたのでした。こうなると故郷へ帰る導きは確かですね。

いの祈り

天のお父様、あなたの導きにまちがいないとハッキリわかるのは、み言葉とまわりの人々にかかっていることを知りました。

11月17日(土)

聖書

創世記33・1~11

聖句

あなたが喜んでわたしを迎えてくださるので、あなたの顔を見て、神の顔を見るように思います。 10節

ヤコブ(かかとをつかむ者)がイスラエル(神の皇太子)と変えられました！くだかれたヤコブは、今度は先頭に進んで行きます。七回も身を地にかがめながら兄エサウに近づいて行きました。エサウは走って来てヤコブを迎え、抱きしめ、首をかかえて口づけし、共に泣いたのです。互いのあいさつに続き、贈り物の群れも、エサウは辞退します。そんなエサウの顔がまるでヤコブの目には「神の顔」のように見えました。神様にある仲直りは感激ですね。

いの祈り

天のお父様、人と人の良いつながりは、人がまず神様と一番良い関係になってはじめて与えられることが、よくわかりました。

11月16日(金)

聖書

創世記32・6~24

聖句

こうして贈り物は彼に先立って渡り、彼はその夜、宿営にやどった。 21節

自分が20年前だました兄エサウが四百人を率いてやってくるのと知らされ、ヤコブはとてつもなく恐れ、苦しみ頭をひねります。一行を二つの組に分けました。そして、アブラハム、イサクの神に恐れ、心を打ち明けて祈りました。「そうだ、贈り物だ、それで彼をなだめよう」。贈り物はヤコブより先にヤボクの川を渡り、その夜、二人の妻と二人のつかえめ、11人の子どもと持ち物を渡らせ、一番大事な自分自身、ヤコブ自身一人あとに残りました。

いの祈り

天のお父様、一人になったヤコブにあなたは組み打ちされ、自我をくだかれ、完全に神様のものとされたことを深く覚えさせてください。

11月18日(日)

聖書

聖句

創世記39・1～23

主は彼のなす事を栄えさせられた。
23節

ヤコブの11番目の子、最愛の妻ラケルから生まれたヨセフに注がれた祝福と勝利を見ましよう。兄たちのねたみで、エジプトに連れて行かれ、ポテパルの家で主がヨセフと共におられたので、その手のすることが栄えました。ところがポテパルの妻のさそいをかわしたため、ぬれ衣を着せられ、ついにろう屋に入られてしまいました。それなのにろう屋の中でも、主はヨセフと共におられ、ろう屋番の恵みが与えられました！主が共にいて、ヨセフのする事を祝されたのでした。

いのちの祈り
天のお父様、ヨセフはあなたの前に何の罪もなかったの、あなたはいつでも、どこでも共にいて栄えさせられました。



聖書

創世記 39・1～23

タイトル

ヨセフの勝利

暗唱聖句

主は彼のなす事を栄えさせられた。
創世記39・23

目標

ヨセフの勝利の信仰に学ぶ。

11月20日(火)

聖書

聖句

創世記37・5～11

兄弟たちは彼をねたんだ。しかし父はこの言葉を心にとめた。 11節

あなたはよく夢を見る子？怪物に追いかける夢なんかこわいですよ。ヨセフは「夢見るティーン」でした。ある時、自分が見た夢を兄弟たちに話すと、彼らはますますヨセフをにくみしました。「ヨセフの束を兄弟たちの束が拝んだ」と言うのですから！また一つの夢を見て、父と兄弟たちに話しました。「日と月と十一の星とが私を拝みました」と。兄たちは頭にきてしまいました。しかし父やヨブはちゃんと心にしまいしました。きつと神様からだと思って。

いのちの祈り
天のお父様、どうでもいい夢もありますが、あなたは、大切なことを夢で示してくださることも信じていきます。

11月19日(月)

聖書

聖句

創世記37・1～4

兄弟たちは父がどの兄弟よりも彼を愛するのを見て、彼を憎み、穏やかに彼に語るができなかった。
4節

17歳のヨセフ、ティーン、高校2年生です。ね！でも学校に行っていたのではなく、10人の兄たちと羊の群れを飼っていました。仲良し11人だったのかな？いえ、どうもちがうようです。ヨセフはお兄さんたちの悪い噂を聞く、言わなくてもいいのに、お父さんに告げ口するのです。父は年寄り子のヨセフを特別に愛して、彼のために、長そでの色とりどりの着物をつくりました。そんなわけで兄たちは、ヨセフに對する、にくしみをどんどん増やしていったのです。

いのちの祈り
天のお父様、今もこのような問題が家庭でおこります。私の家族一人一人があなたに守られますように。

11月22日(木)

聖書

聖句

創世記37・25～36

彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行った。 28節

長そでの着物をはぎ取られたヨセフは、水のない穴の中に投げ入れられました。そのそばで兄たちがパンを食べていると、ちょうどエジプトへ下ろうとする隊商が通りかかりました。今度はユダがまたがった意見を言い、ついにヨセフは売られて、エジプトへ連れ去られてしまいます。兄弟たちにとってヨセフは視界から消えて、せいせいました。しかしヤコブにとってはヨセフは死んだ者となり、死ぬほどの苦しみでした。

いのちの祈り
天のお父様、人の目にはすべて、本当のことが見え、わからなくても、あなたはちゃんと知って導いてくださる、ただ一人の方です。

11月21日(水)

聖書

聖句

創世記37・12～24

さあ、彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食ったと言おう。そして彼の夢がどうなるか見よう。 20節

ヨセフはお父さんの言いにつけて、羊の群れを飼っている兄たちの所に様子を見に行きます。ドタンという所へ行った兄たちの方へ向かうヨセフを、はるか遠くから見た兄たちは、ヨセフを殺そうと相談します。兄たちのくしみはもう頂点にまできて、殺すことしか考えられないほどだったとは、何と恐ろしいことでしょう！彼の夢がどうなるか、見てやるうではないか！しかし、そこにも見えな神様のお働き！ルベンは違った考えをもっていたのです。

いのちの祈り
天のお父様、祝福の器には、はく害が付きものですが、あなたは不思議な御手で守り導かれることを感謝します。

11月24日(土)

聖書

聖句

創世記39・6b～23

どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう。 9節

成功者にしのびよるゆうわく…こわいですよ。お金のゆうわく、名よのゆうわく、そして神様を忘れさせようとするのです。ここでは婦人のゆうわくでした。ハンサムがかっこ良かったヨセフに、言い寄ってきたのです。「私と寝なさい」と！しかし、ヨセフは断固として断ります。「どうして私はこの大きな悪を行って、神様に罪を犯すことができましょう」と。ヨセフは逃げました！かしこいやり方でした。ですから、たという屋に入れられても、主が共におられたのです。

いのちの祈り
天のお父様、ゆうわくに負けることは、あなたに罪を犯すことです。ヨセフのように逃げて、勝利させてください。

11月23日(金)

聖書

聖句

創世記39・1～6a

その主人は主が彼とともにおられることと、主が彼の手のすることをすべて栄えさせられるのを見た。 3節

大好きなお父さんから別れ、なつかしいカナン之地からも離れて、見るものみんなめずらしい、初めてのエジプトの地で、ヨセフはホームシックで泣いたでしょうか。いいえ、ヨセフは「ラッキー・ティーン」でした！なぜなら、「主がヨセフと共におられた」からです。「幸福な者」「成功者」でした！ですから侍衛長ポテパルは、ヨセフと共に主がおられて、彼の手のすることすべてを栄えさせられるのを見て、ヨセフに持ち物をゆだね、家をまかせたのです。

いのちの祈り
天のお父様、「主と共におられる」ということが、だれにとっても一番の幸福であり、祝福の源泉だと信じます。

11月25日(日)

聖書

創世記45・1~15

聖句

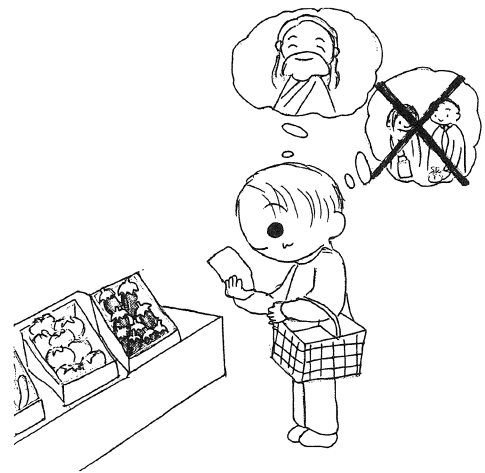
それゆえわたしをここにわした
のはあなたがたではなく、神です。

8節

「摂理」って難しい言葉ですが、神様が不思議な計画をもって、苦しみや悲しみも、どうしてかと思うこともみなひつくるめて、最後には幸せをくださるというので、そのことを信じることを「摂理信仰」と言います。摂理信仰者は、ヨセフのように、100%の勝利者、圧倒的勝利者として生きられるのです。あれほどにもヒドイ目に合わせた兄弟たちを完全にゆるし、ほんの少しの苦い思いもなく、「神です」と言えたヨセフは、真に摂理信仰による勝利者でした。

いのちの祈り

天のお父様、私も摂理の神であるあなたを心から信じて、何が起ころうとも摂理信仰を働かせて、勝利の歩みをさせてください。



聖書

創世記 45・1~15

タイトル

摂理の信仰

暗唱聖句

それゆえにわたしをここにわしたの
はあなたがたではなく、神です。

創世記45・8

目標

ヨセフの摂理信仰に教えられる。

11月27日(火)

聖書

創世記41・1~24

聖句

二年の後パロは夢を見た。夢に、彼は
ナイル川のほとりに立っていた。

1節

給仕役の長を当てにしていたヨセフは、がっかりしてしまっただけだろうか。いや、私は人を当てにしてしまっただけで、まちがっていた。どこまでも当てにすべきは神様だけだと、静かに神様の時を待たせよう。さあ、神様の時がやってきました！今度はパロが夢を見ました。だれも解けません。「おお、そうだ！」と給仕役の長はヨセフを思い出し、ヨセフは急いでろう屋からパロのもとに。ひげをそり着物を着がえて出ました。「神がパロに平安をお告げになりました」と。

いのちの祈り

天のお父様、「神のなされることは皆その時にかなって美しい」(伝道3・11)のとおりで、驚くばかりです。

11月26日(月)

聖書

創世記40・1~23

聖句

ところが、給仕役の長はヨセフを思
い出さず、忘れてしまった。 23節

夢見るティーン、ヨセフの「夢解き」の場面です。王の給仕役の長と料理役の長が罪を犯して、ヨセフの入っていたろう屋に入れられました。そのふたりがある夜、意味のある夢を見ました。だれも夢を解いてくなくて、悲しみに沈む彼らに、「解くことは神によります。私に話してください」と言って、一人ずつ聞きました。ヨセフが解いたところになった時、「私を覚えてください」と頼まれた給仕役の長はすっかり忘れてしまいました。これも神様の計画でした。

いのちの祈り

天のお父様、物事が、自分の思うとおりに行かない時、そこにも、もっとすばらしいあなたの計画があることを覚えさせてください。

12月2日(日)

聖書

イザヤ11・1～5

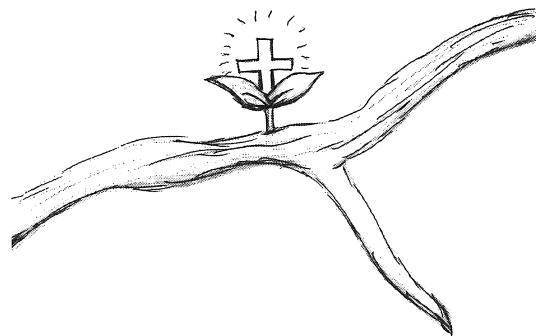
聖句

エッサイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上に主の霊がとどまる。

1～2節

今年もアドベント(待降節)に入りましたね。やっぱり心うれしく、温かくなる時です。今日はろうそく一本。光として来られた救い主を、心こめてお迎えしましょう。イザヤによってなされたメシヤ(救い主)の預言です。エッサイとは、ダビデのお父さん、一つの芽とは、ダビデの子と言われた救い主のことをさしています。一つの若枝もそうです。生えて実を結び、そしてその上に主の霊がとどまると言われています。イエス様は本当に主の霊に満たされた救い主です。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様が来られる七百年も前に、イザヤが預言しました。イエス様は預言どおりの救い主であることを学ばせてください。



聖書

イザヤ11・1～5

タイトル

一つの若枝

暗唱聖句

エッサイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上に主の霊がとどまる。イザヤ11・1～2

目標

イザヤが預言した救い主を知る。

12月4日(火)

聖書

イザヤ11・3

聖句

彼は主を恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、3節

あなたの楽しみって何かな？ 魚釣り？ ゲーム？ カメラ？ いろいろあるでしょうね。彼とは救い主イエス様ですが、イエス様は主を恐れることを楽しみとしたのです。つまり、神様のことを心からおそれ、神様をいつも第一番にするのが楽しくて、楽しくて仕方がなかったというのです！ さらにすこいの目は目で見てすく「うだ」と決めない、耳で聞いて「ああだ」と決めてしまわないお方だったのです。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様でさえ、見たり聞いたりしたことで、すぐに決めこんだりしなかったと知り、とても教えられます。

12月3日(月)

聖書

イザヤ11・2

聖句

その上に主の霊がとどまる。これは知識と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。

2節

救い主イエス様の上にはいつでも、主の霊、神の霊がとどまっています。それは、知識や悟り、考え深くあることと才能の霊、と聞くと、「えーっ、イエス様を信じる、と、何でもわかる？！ 博士になれるの？！」と思ってしまうかな？ 確かにこの世界には学問や知識の本は無限にあります。そんな知識が全部自分のものになるのではありません。本当に知らなければならぬこと、それを悟りと言いますが、それは主を知るといふことと主を恐れることで

いのちの祈り
天のお父様、イエス様にとどまっていた主を知る知識と、主を恐れる霊について知ることができそうです。

12月6日(木)

聖書
聖句

イザヤ 11・5
正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。 5節

とつてもまじめな子どものことを「歩く生徒手帳」と言ったり、「真面目が服を着て歩いている」なんて言います。イエス様はどうでしょう？「一番力が入る腰、そこに結ばれている帯の名前は「正義」！うそや偽り、いい加減、ごまかし、まちがいが絶対にない姿ですね。本当にイエス様について行ったら正しく歩めるのです。胴体に結ばれていた帯は「忠信」！他の言葉で言うところ「真実」です。なんてうれしく安心できることでしょう。真実なイエス様ハレルヤです。

いのちの祈り
天のお父様、イエス様だけはいつでも、どんなときでも、私に真実を尽くしてくださることを心から感謝します。

12月5日(水)

聖書
聖句

イザヤ 11・4
正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし、 4節

多くの人の目にすぐ止まるのは、富んでいる人、社会の真ん中で、どんどん活やくする人でしょう。でも、イエス様の目と心にとまっている大切な人々は、貧しい人々です。そして、社会の見えない、目立たないような所で、心やさしく、忍耐強く生きている人々です。うれしくなりませんか？世の中で必要なのは、お金や能力のある人々です。そうでない人は用がないと相手にしてくれませんか。でも神の国は全然ちがいます。救い主が教えてくださっています。

いのちの祈り
天のお父様、主の霊に満たされて、貧しい者や柔和な者のために、力をあらわしてくださるイエス様を感謝します。

12月8日(土)

聖書
聖句

イザヤ 11・9
水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。 9節

一人の人が救い主イエス様を知り、信じることはとても大きいことです。初めて会う人でも「クリスチャンです」の一言で、すぐにも心が通じます。外国の人であっても「アイアムアクリスチャン」の一言で、国籍をこえて心が通じ合います。ですから不思議です。教会というところも、いろんな職業の人、年齢のちがう人々が集まっているのに、不思議と心が一つになれるのです。それはみんなが「主を知る」人だからです。やがてその最高の知識が地に満ちるということです。

いのちの祈り
天のお父様、今私のまわりの人々が全員、主を知るクリスチャンになったら！何とすばらしいことでしょう。その日を目指して励みます。

12月7日(金)

聖書
聖句

イザヤ 11・6～8
乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。 8節

おかみと小羊？ひょうと子やぎ？子牛、若じし、肥え太った家畜が小さい子どもに引かれていく？雌牛と熊がいつしよに食べ、牛の子と熊の子が共に休む？ししが牛のようにわらを食べる、乳のみ子が毒へびの穴で遊ぶ！乳離れの子がまむしの穴に手を入れるなんて！「考えられない、あり得ない」と思うでしょう。これはイエス様が再びこの地においでになる再臨の時、実現するのです。イザヤに見せられたおどろくべきまぼろし！アダムの罪でそこなわれた世界の回復です。

いのちの祈り
天のお父様、救い主イエス様が、世界も宇宙も歴史も超える大きなお方であることを知りました。

12月9日(日)

聖書

ルカ 1・26～38

聖句

わたしは主のはしためです。お言葉
どおりこの身に成りますように。

38節

神の子イエス様をお腹に宿す人だなんて一体
どんな人?! と思えますよね。全世界、全歴史
の中で、たった一人選ばれた人ですよ! それ
がマリヤ。マリヤさんの信仰を見ていく時、「あ
あ、なるほど」と神様がお選びになった理由が
よくわかります。突然! 御使いガブリエルが
やってきてマリヤから救い主が生まれると聞い
て、とまどい驚きたずねましたが、聖霊の力
によりますと聞いて、「お言葉どおりこの身に」
とへりくだって、主に仕える者としてお受けした
のです。

いの
祈り

天のお父様、マリヤはこれ以上ないと思える
ような重大な決断を、信仰によってその場でし
ました。その信仰にならいます。



聖書

ルカ 1・26～38

タイトル

マリヤの信仰

暗唱聖句

わたしは主のはしためです。お
言葉どおりこの身に成りますよ
うに。 ルカ 1・38

目標

主の母として選ばれたマリヤの
信仰を見る。

12月11日(火)

聖書

ルカ 1・29～33

聖句

この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎが
して、このあいさつはなんの事であ
ろうかと、思いめぐらしていた。

29節

ドキドキしたのは当たり前でしょうね。
そして「このあいさつは一体何を意味してい
るのかしら?」と、マリヤは「思いめぐらし
ていた」でした。それが、マリヤの良い
特徴でした。そのマリヤに、「恐れることは
ない。マリヤよ、あなたは神から恵みをい
ただいているのだから。あなたはみごもつ
て男の子を産みます。その子をイエスと名
づけなさい」との御使いの語りかけでした。
私たちもマリヤのように、大切な言葉や
メッセージを思いめぐらす人になりまし
う。

いの
祈り

天のお父様、毎日あなたが聖書や人とおし
て語ってくださる言葉を、心にとめて思いめぐ
らす習慣ができますように。

12月10日(月)

聖書

ルカ 1・26～28

聖句

恵まれた女よ、おめでとう、主があ
なたと共におられます。 28節

全世界を見渡し、大都会のローマとか、宮殿
のあったエルサレムではなく、みんなから少しさ
げすまれていたような、ガリラヤの町ナザレに住
んでいたマリヤのもとに、御使いガブリエルはつか
わされたのです。しかも貧しい大工のヨセフと
結婚の約束をしていた、普通のどこにでもいる人
でした。でもそのあいさつは「恵まれた女よ、お
めでとう、主があなたと共におられます」でし
た。どこに住むというより、主と共におられるこ
とこそ、恵まれた人の姿なのです。

いの
祈り

天のお父様、こんな平凡なふつうの子である
私も、あなたは共にいてくださり感謝です。
私も恵まれた子どもです!

12月13日(木)

聖書

ルカ 1・39～45

聖句

主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさ
いまいなことでしょう。 45節

そこでマリヤは御使いから聞いたエリサベツの所へ行って、あいさつをしました。そこはユダの町といっても山里でした。エリサベツがマリヤのあいさつを聞くと、エリサベツのお腹の子がおどったというのです。エリサベツは聖霊に満たされて声高く、喜びのあまりに叫んで言いました、「主の母上がおいでくださるなんて、何という光栄なのでしょう！あなたも胎の実も祝福されています。主のお語りになったことが必ず成就すると信じた人は何と
幸いなことでしょう！」と。

いのちの祈り

天のお父様、私もあなたがお語りになったことは必ず実現すると信じる、幸せな子どもにならせてください。

12月12日(水)

聖書

ルカ 1・34～38

聖句

神には、なんでもできないことはありません。 37節

「エツ！結婚もしていない人が、男の子を産むなんてことがあるのでしょうか？」と、たずねるマリヤに御使いはこたえます。「聖霊があなたに臨んで、いと高き者の力があなたをおおいます。だから生まれ出る子は聖なる神の子です。不妊の女と言われた老年のエリサベツもはや子を宿して六カ月です。神にはなんでもできないことはありません」と。神様がなさってくださいさるのなら、きつと大丈夫。神様がすべて責任をとってくださいさるでしょうからと、マリヤはお受けしました。

いのちの祈り

天のお父様、本当に、「神には、なんでもできないことはありません」という大胆な信仰をもって進ませてください。

12月15日(土)

聖書

ルカ 2・1～20

聖句

しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。 19節

静かなクリスマスの夜、神のみ子はベツレヘムの家畜小屋でお生まれになりました。そのグツド・ニースは近くの野原で羊を飼っていた貧しい人たちにまず伝えられたのです。うれしくも、不思議な知らせでした。救い主のしるしは、ダビデの町の飼葉おけの中、布にくるまってある幼子です。たちまち天の軍勢の大合唱！もとの暗やみの中で羊飼いたちは、ベツレヘムへダッシュ！ああ本当に告げられたとおりだ！マリヤは、羊飼いたちの話を心に留め、思いめぐらしました。

いのちの祈り

天のお父様、マリヤは、本当に神様にはなんでもできないことはないんだと、思いめぐらしながら深く思ったことでしょう。

12月14日(金)

聖書

ルカ 1・46～56

聖句

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます。 46、47節

マリヤは、「もし、私のお腹に赤ちゃんが宿っているのを知ったら、ヨセフさんは……人々は……」としっかり考えたでしょう。でもマリヤの信仰は生きて働きました。思わず、「あがめます！」と神様のほめ歌が心から口からあふれ出しました。これからどんなことが起こるかを考えると恐れにとり囲まれるはずなのに、この賛歌(マグニフィカート)はかつて、サムエルの母ハンナが歌ったのとそっくりです。マリヤは旧約聖書をよく知っていたのです。

いのちの祈り

天のお父様、マリヤの賛歌は信仰による先取りのものでした。私もみ言葉をよく暗唱して、信仰に満たしてください。

12月16日(日)

聖書

聖句

マタイ 1・18～25

見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。 23節

クリスマスにはマリヤはなくてはならない人だけど、救い主を宿したマリヤのために、ヨセフもなくてはならない人でした。だから今、イエス様を信じる私たちも「ヨセフさん、ありがとう」と言って、その信仰になりたいですね。ヨセフがマリヤのことを知って、とっても悩み、いろいろと思いめぐらし考えていると、主の使いが夢に現れて、本当のことを教えてくれました。マリヤは、預言され、待ち望まれてきた救い主を宿している！預言のとおりだと納得しました。

いのちの祈り 天のお父様、ヨセフに語られた今日ののみ言葉をありがとうございます。神様が共におられるという信仰をくださり、感謝します。



聖書

タイトル

暗唱聖句

マタイ 1・18～25

ヨセフの信仰

見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。

マタイ 1・23

目標

神の計画の中で用いられたヨセフの信仰を見る。

12月18日(火)

聖書

聖句

マタイ 1・18～21

彼がこのことを思いめぐらしていたとき、主の使が夢に現れて言った、「ダビデの子ヨセフよ、心配しないでマリヤを妻として迎えるがよい」。

20節

ヨセフもマリヤとおなじように「思いめぐらす」人だったんですね。何でも早合点したり、早とちりしたり、急いでまちがった結論を出したりしないために、「思いめぐらす」ことは大切ですね。その中に、必要な時に、神様が入ってきてくださって一番良い答をくださるんですね。すべてのことにおいて神様のチャンス・出番をさし上げる大切さを知りましょう。主の使いは、ヨセフが今すべき一番大事なことを告げられました。

いのちの祈り 天のお父様、私たちも悩んだり考えたりしますが、あなたがそこに一番よい答を教えてください。安心しました。

12月17日(月)

聖書

聖句

マタイ 1・1～16

ヤコブはマリヤの夫ヨセフの父であつた。このマリヤからキリストといわれるイエスがお生れになった。

16節

ちよつとややこしい聖書箇所だったけど、とばさないで、間違わないで、ちゃんと読めませんか？救い主イエス様は、ダビデの家系からお生まれになると預言されていました。悪魔はたびたびこの家系を絶やそうと立ち向かいました。が、ついに！守られて、ダビデの子孫ヨセフを夫としてもつマリヤから、キリストといわれる救い主イエス様がお生まれになりました！この系図には四人の女性も登場しています。わかりますか？神の子イエス様が人となってくれました。

いのちの祈り 天のお父様、アダムが罪におちいってすぐに救い主の約束が与えられ、ついに約束をなしとげられた、あなたの真実を感謝します。

12月20日(木)

聖書

マタイ 1・24~25

聖句

ヨセフは眠りからさめた後に、主の使が命じたとおりに、マリヤを妻に迎えた。 24節

神様は大切なことを、時には夢とおしてでも語ってくださいのですね。「なんだ、今のは夢じゃないの」って軽く考えてはいけません。夢もあるのです。ヨセフのこの時の夢がそうでした。深刻に悩んでいたヨセフに神様からの大事なメッセージが語られたからです。ヨセフは眠りからさめて、「マリヤは預言の救い主を宿しているのか」と、おどろくと共に、ちゃんとマリヤを妻にめとり、その子をイエスと名づけ、守っていく責任があるぞと、きつと心に決心したことでしょう。

いのちの祈り
天のお父様、あなたがいろいろな方法で私に大切なことを教えてください。ちゃんと聞いて行かせてください。

12月19日(水)

聖書

マタイ 1・22~23

聖句

すべてこれらのことが起ったのは、主が預言者によって言われたことの成就するためである。 22節

イエス様が「おとめ」からお生まれになると預言したのはイザヤでした。イザヤ7・14に「見よ、おとめがみこもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる」とあります。イザヤはいつごろこの預言をしたのでしょうか？何と、イエス様がお生まれになる七百年も前のことでしたよ！預言ってすごいね。それは「主が」預言者によって言われたとありますから、もちろん神様はすごいね。何百年たっても約束を守られるのですから。

いのちの祈り
天のお父様、あなたの真実なお約束でいっぱい聖書をありがとうございます。しっかり読んで、信じて従います。

12月22日(土)

聖書

マタイ 2・16~23

聖句

見よ、主の使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて言った、「立って、幼な子とその母を連れて、イスラエルの地に行け」。 19、20節

やっぱり、ヨセフさんは神様選ばれた人だったのだなあとお思いますよね。もし、ヨセフさんがいなかったらマリヤや、幼子イエス様はどうなっていたかしらとゾクゾクします。主の使いは、エジプトにいるヨセフにまた夢で現れて言いました。幼子の命をねらっていた人々は死んでしまったから、マリヤとイエスを連れてイスラエルに帰りなさいと。さらにまた夢により、イスラエルでもナザレというマリヤの育った町へ行って住んだのです。

いのちの祈り
天のお父様、あなたから大きな信頼をよせられていたヨセフの信仰の姿に、多くのことを教えられる感謝します。

12月21日(金)

聖書

マタイ 2・1~15

聖句

見よ、主の使が夢でヨセフに現れて言った、「立って、幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい」。 13節

イエス様がベツレヘムでお生まれになったころ、ヘロデ王のもとに東方の博士たちが、救い主、ユダヤ人の王を拝みにやってきました。実はエルサレムの宮殿ではなく、ベツレヘムで預言のとおりにお生まれになったので、博士たちはベツレヘムの家にいた幼子イエス様を拝み、宝物をささげ、夢のみ告げでヘロデの所をさけて、他の道を通って帰って行きました。その後、主の使いは夢でヨセフに、幼子の命を守るためエジプトに逃げなさいと語られました。

いのちの祈り
天のお父様、ここでもヨセフがマリヤとイエス様のために、救いの道が断たれないために用いられたことを知ります。

12月23日(日)

聖書

ヨハネ 3・16~21

聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

16節

にせんななねん
二〇〇七年のクリスマスおめでとう！
あなたのための、私のためのクリスマス
を心から神様に感謝しましょう。
今日洗礼を受けるお友だちがいたら、
ハレルヤ！心からおめでとう！今日の
み言葉の「この世」という所に、代わり
に自分の名前を入れるといいと言われ
るみ言葉です。大切なひとり子を与え
てくださるほどに私を愛してください
、イエス様を信じる者に永遠の命を
与えてくださる神様に、感謝と礼拝を
おささげします。

いの祈り
天のお父様、聖書の中の聖書と言われる今日の
み言葉を暗唱し、信じます。ひとり子イエス様
という最大のプレゼントを感謝します。



聖書

ヨハネ 3・16~21

タイトル

ひとり子への信仰

暗唱聖句

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 ヨハネ 3・16

目標

神の最大のプレゼントであるひとり子を信じる。

12月25日(火)

聖書

ヨハネ 1・10~13

聖句

彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

12節

メリー・クリスマス！教会では、子どもクリスマスとか親子クリスマスとかあるのかな？
イエス様は神様のひとり子であられるのに、とても静かに、ひっそりとベツレヘムにお生まれになりました。世の人々は、この方によって造られたのに、イエス様を知ろうとも受け入れようとしません。何ということでしょう。
でもイエス様を救い主として受け入れ、その尊いお名前を信じた人々には、神の子となる力、特権が与えられます。あなたはもう神の子？！

いの祈り
天のお父様、あなたを救い主として心にお迎えし、神の子とされて、本当のクリスマスをお祝いさせてください。

12月24日(月)

聖書

ヨハネ 1・1~9

聖句

すべての人を照すまことの光があって、世にきた。

9節

今日はクリスマス・イブの日です。どこの教会でもキャンドル・ライト・サービス(燭火礼拝)が行われるでしょうね。それは永遠の初めからおられ、神と共におられた言葉なる神様、その言葉に命があって、その命が人の光だった神様であるひとり子イエス様が、すべての人を照らすまことの光として、私たちのこの世においでくださったことを記念し、感謝するため、また礼拝するためです。私の心の罪のやみも、光に照らして除いてくださるひとり子です。

いの祈り
天のお父様、まことの光としてあなたがおつかわしくくださった、ひとり子イエス様の光に従う、光の子としてください。

12月27日(木)

聖書

ヨハネ 1・19～34

聖句

見よ、世の罪を取り除く神の小羊。
29節

イエス様より半年早く生まれたバプテスマのヨハネは、救い主イエス様のために道を備えた人でした。「わたしのあとにおいでになる方のくつのひもを解く値うちもない者だ」と話していました。さあ、その次の日、イエス様がヨハネの方にやって来られるではありませんか！ヨハネは思わず、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と叫びました。そうです。このひとり子なるお方は、世の罪を取り除くために来られた、神様からつかわされた犠牲の小羊なのです。信じますか？

いのちの祈り
天のお父様、私の罪の身代わりに十字架で死ぬためにおいでくださった、ひとり子イエス様をありがとうございます。

12月26日(水)

聖書

ヨハネ 1・14～18

聖句

神を見た者はまだひとりもない。
ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。
18節

目に見える神様がいたら、それは本当の神様ではなく、人が作った神様で偶像といえます。本当の神様が一番おきらいになるものです。神様をこの目で見た人は一人もいません。ただ、父なる神様のふところにおられる、つまり、ピタッと一つであられるひとり子なる神様、この世に私たちと同じ人間の姿をとっておいでくださったイエス様だけが、神様をあらわされたお方です。イエス様を見た人、出会った人は神様を見たのです！うらやましいね。

いのちの祈り
天のお父様、ひとり子なるイエス様が、どんなにスペシャル（特別）な方かよくわかります。深く信じたいです。

12月29日(土)

聖書

I ヨハネ 5・6～12

聖句

御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。
12節

ひとり子イエス様を信じるってことは何とスゴイことなのでしょう。この一年も終わりに近づいて、このことをじっくり考えられて感謝です。二つ目の誕生日があるということは二つの命が与えられていることですね。一つ目は「オギャー」と生まれた肉体の命、二つ目は、イエス様を信じて与えられた霊の命、永遠の命、本当の命ですね。外側は同じような子どもに見えても、イエス様を信じる子と信じない子は全然ちがうのだ！と叫べます。だから伝道したいよね。

いのちの祈り
天のお父様、クリスマスから一週間、命について心に刻めて感謝です。死なない命を伝えさせてください。

12月28日(金)

聖書

I ヨハネ 5・1～5

聖句

世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか。
5節

たった一つだけ誕生日をもっている人、つまり、ある日ある時、「オギャー」とお母さんから生まれてきてそのままの人は、実はいつも負けっぱかりいるのです。罪の力やゆうわくの力、この世の中のいろんな力、そして、自分自身の欲にも負けてしまうのです。くやししい、情ないですね。でも罪を認めて、イエス様ごめんなさいとおわびし、新しく心が生まれ変わった人、つまりイエス様を神の子、救い主と信じると、勝っていけるのです！あなたはどちらかな？

いのちの祈り
天のお父様、私もイエス様を信じ生まれ変わり、二つ目の誕生日をもらって、世の力に勝っていけるようにしてください。

12月30日(日)

聖書

詩篇100・1~5

聖句

感謝しつつ、その門に入り、ほめた
たえつつ、その大庭に入れ。 4節

今日は、今年最後の日曜日です。この一年、いろいろなことがありましたね。あなたの一年の感謝なできごとを書いてみましょうか。この一年いろいろな日曜日がありませんか。病気で休んだ日もあったのかな？教会のことで感謝だと思つたことも書いてみましょうか。そんな感謝なできごとを神様にお祈りしましょう。神様はどんなにか喜んでくださるし、何より、お祈りするあなたの心もますます感謝にあふれて、はち切れそうになりますよ。きつと！

いのちの祈り

天のお父様、この一年、私の教会生活をお守りくださり、毎日の歩みをお守りくださり感謝します。



聖書

詩篇100・1~5

タイトル

感謝の歌

暗唱聖句

感謝しつつ、その門に入り、ほめた
たえつつ、その大庭に入れ。

詩篇100・4

目

標

信仰者として、この一年を神様に感謝する。

1月1日(火)

聖書

詩篇100・2

聖句

喜びをもって主に仕えよ。歌いつ
つ、そのみ前にきたれ。 2節

ハッピー ニュー イヤー！主の年二〇〇八年、明けましておめでとーございます！元旦礼拝に出るお友だちもあるでしょうね。一年の始まりに、まず神様を礼拝できるのも幸せですね。この一年もイエス様がご支配くださる一年です。私たちも喜びをもって主に仕える一年となりますように、お祈りしましょう。主に仕えるとは、み言葉を聞いて行うことです。そして、今年も52回の日曜日、歌いつつ、神様の前に出て、喜びの礼拝がささげられますように！

いのちの祈り

天のお父様、二〇〇八年の始まりの日を心よりありがとうございます。喜びと賛美と礼拝の一年にしてください。

12月31日(月)

聖書

詩篇100・1

聖句

全地よ、主にむかって喜ばしき声を
あげよ。 1節

いよいよ二〇〇七年最後の日となりました。毎日毎日、三百六十五日、み言葉とともにすごせて幸せでした。この年末年始は、「感謝の供え物のための歌」である詩篇百篇とともに、年を終え、年を始めましょう！
一人で感謝のできごとを書いたり、祈ったりするのもうれしいことですが、そうしていると、お友だちにも一緒に喜んでほしいなと思うようになるでしょう。この一節では、「全地よ！」って呼びかけるまでになってますね。

いのちの祈り

天のお父様、本当にこの一年の一日一日をありがとうございます。私も「全地よ！」と呼びかけたいと思います。

1月3日(木)

聖書

詩篇100・4

聖句

感謝しつつ、その門に入り、ほめた
たえつつ、その大庭に入れ。主に感謝
し、そのみ名をほめまつれ。 4節

あなたが神様にささげるお祈りはどんなお祈りが多いですか？ぶつぶつ文句をいうお祈りとか、悲しい、くやしい涙のお祈りとか、「どうか、どうか」のお願いの祈りとか。たぶん「どうか」のお祈りが一番多いのかな。では、ぜひともやってみてください。「感謝ばかりのお祈り」です。小さな感謝も、当たり前と思っていることの感謝も、どんどん祈っていくと、「ああ、神様ってこんなにうまくしてくださって」と思い、ますますお祈りしたくなりま

すよ。
天のお父様、感謝のお祈りの足りなかったことを知りました。もっとも感謝にあふれさせてください。

1月2日(水)

聖書

詩篇100・3

聖句

主こそ神であることを知れ。われらを造られたものは主であって、われらは主のものである。われらはその民、その牧の羊である。 3節

私たちは、主なる神様に造られたもの。神様はこの美しくも驚くばかりに造られた天と地と、その中のありとあらゆるものの造り主ですね。その神様が、私たち一人一人を「よし！グッド！」と言って造ってくださいたなんて、うれしいでしょう？そして、私たちは神様のものとして大切に守られます。神様の民であり、神様の牧場にいる羊だといわれています。最高の羊飼いである神様の羊には、乏しいことなどないのです。

天のお父様、あなたが私の造り主であり、また羊である私の飼い主であることを心より感謝してすごします。

1月5日(土)

聖書

詩篇150・1～6

聖句

息のあるすべてのものに主をほめた
たえさせよ。主をほめたたえよ。 6節

今日の詩篇は、詩篇の最後のものです。「主をほめたたえよ」が6節の中に12回も出てきます。これはみんなもよく知っている「ハレルヤ」というヘブル語ですよ。主の宮で、大空で、ハレルヤ。主の大きな力とお働きのゆえにハレルヤ。ラッパ、立琴、琴、鼓と踊り、緒琴と笛、音の高いシンバルでハレルヤ！そして「息のあるすべてのものに主をほめたたえさせよ」とーさあ、明日から、この一年も教会で主をほめたたえよう。

天のお父様、この一年も元気に教会であな

1月4日(金)

聖書

詩篇100・5

聖句

主は恵みふかく、そのいつくしみは
かぎりなく、そのまことはよろず代
に及ぶからである。 5節

神様、あなたはこうしてこんなにも私に優しくくださるのですか？私はそんなにしていただけのような者でもないのに、と思うくらい、主は一方的な恵みを注ぎ続けてくださいます。主のいつくしみ、つまりアガペーの愛は、ますます深く、無限に注がれます。神様のまこと、つまりその「真実」は、決して変わることはありません。昨日も今日も、そしてとこしえまでも。何代にもわたって！このよ

うな神様だから、たたえても、たたえても足りないでしょう。
天のお父様、あなたの深い恵み、無限の愛、永遠に変わらないご真実のゆえに、心から感謝しほめたたえます。